

■ 地域公共交通の現状、問題点及び課題の整理

資料 3

現状問題点の整理

★：第2回協議会からの追加箇所

アンケート結果（参考資料2）の該当ページ

	公共交通事業者の現状・視点から	地域・公共交通の状況から	市民の実態・視点から
千葉市全体に関わる事項	●「乗務員不足」が深刻（持続的な運営面で最大の問題） ●バス事業者間の路線の調整機会（不定期） ●バス停での利用客のマナーがよい ●外国人への対応（各社個別） ●鉄道の終電時刻、直通運転、バリアフリーの要望 ●バス離れに対し市民の意識、イメージを変えることが必要 ●サービス向上、利用 PR の種々の取組み（各社個別）	●今後、人口が減少するなか、高齢化が進展（移動手段確保が重要、ただし需要面での危惧） ●市内の移動が多く、東京への移動も多い ●区内の移動は、徒歩・自転車、クルマ利用が特に多い（高齢者も同様） ●他区や東京都内へは、鉄道、クルマの利用が多い（バスは少数だが一定の利用） ●路線やダイヤがわかりにくい（高齢者と若年層は調べる手段が異なる） ●ターミナルの案内所、HP の案内情報等（各社個別） （市全体のまちづくりの方向性） ●集約型都市構造への転換 ●少子高齢化対応、低炭素社会に向け、過度にクルマに頼らない生活に転換 ●公共交通利用を促進し利便性を向上、郊外の地域公共交通を維持・確保（多様な分野で同様） （その他各分野のまちづくり） ○駅周辺の賑わい創出 ○港を活かした観光・集客 ○健康、地球環境、賑わい、暮らし等の分野の観点から、徒歩・自転車・公共交通利用の促進が必要	★公共交通の利用頻度が少ない人が一定数存在（クルマ等があるため必要がないとの理由が多い） ●鉄道の満足度が高く、バスの不満度がやや高い ★（鉄道の満足理由の多くは、便数が多いことや駅が近いこと） ★（バスの不満理由の多くは、便数が少ないことや定時性について） ★（満足か不満か、わからない人も多い） ●最寄りのバスについて知らない人が一定数存在（身近な交通手段として、バスに対する意識醸成等が必要） ●バス定時性（渋滞による遅延）への不満が多い ★鉄道車内の混雑に対する不満が多い ●運行本数、乗り換えの改善への要望がある ★バス利用客は少ないが、一定の利用がある（バスが必要な高齢者等がいる） ●運転免許の返納者は少ないが、将来的に考えている人が多い
都心部 ↑ ↓ 郊外部	●バスの特定区間で利用客が増加（ただし一部のみ、乗務員不足で増便不可も） ●渋滞でバスが遅延（バス離れ、労働環境に影響） ●送迎バスがバス路線と重複 ●バスロータリーが飽和状態 ●航路を PR しきれていない、観光との連携が必要 ●ラッシュ時の車内が著しい混雑（改善の要望） ●最終列車遅延時等のバス待ち合わせの例は一部 ●特に団地部等が高齢化、バス・タクシー利用客が減少 ●収支のよくないバス路線が存在（減便等の対応と、利用客のバス離れの悪循環） ●タクシーの営業所は多くが市中心エリア（乗務員不足で配車に時間がかかりクレーム）	●主要駅・ターミナル等が、不慣れな高齢者、来訪客にわかりにくい（抵抗感の可能性もある、改善の希望がある） ●ラッシュ時間帯に、鉄道、路線バスの便数、利用客とも集中 ●人口密度の低いエリアに高齢者が広く分布（今後さらに進み、鉄道・バス等では対応困難）	

■ 地域公共交通の現状、問題点及び課題の整理

今後に向けた課題の整理(案)

○本市の現状・問題等から、大別して以下に示す課題が整理できます。

○これらの課題が存在することを踏まえ、本市の公共交通の「基本理念（目指す姿）」、それに対する「基本方針（考え方）」、それに対して必要となる「取り組みの方向性」について、今後、検討していきます。

（１）本市の公共交通「**全体**」にかかわる課題

- ◆ 将来にわたり持続可能な交通サービスの提供（利用促進や利便性向上）
- ◆ 高齢化や移動ニーズの多様化への対応
- ◆ 多様な交通サービス事業者を含めた複数の交通事業者間の連携
- ◆ 市民等の公共交通に対する意識・ライフスタイルの変容
- ◆ アフターコロナを見据えた公共交通のあり方、移動の検討

（２）「**都心部**」にかかわる課題

- ◆ 混雑緩和や快適性の向上
- ◆ 主要ターミナルにおける利便性の向上
- ◆ 公共交通とシェアサイクル等の多様な輸送資源の活用

（３）「**郊外部**」にかかわる課題

- ◆ 従来の公共交通に加え、地域の多様な輸送資源（送迎サービスなど）の活用
- ◆ 公共交通不便地域における移動手段の導入検討
- ◆ 地域ニーズに即した、移動手段確保体制の構築

左記の課題があることを

踏まえ、今後、

「基本理念（目指す姿）」

「基本方針（考え方）」

について検討していきます。